

繪本豊臣勲功記

五編
五

遠13
2209
45



特
門遠 13
種 2209
卷 45

繪本豊臣勲功記五編卷之五

目錄

秀まろい諫まろい君まろい燒まろい惠まろい林まろい寺まろい象まろい願まろい

属ひせ秀ひせ台ひせ出ひせ軍ひせ

妙うら國うら寺うら蘇うら織うら安うら土うら城うら倣うら佐うら

属あ安あ土あ宗あ論あ

四十一編

加茂正冠城黒田代忍城

属 謀刺世沙

今片相孫倉峯行富撃謀

属 城兵降参

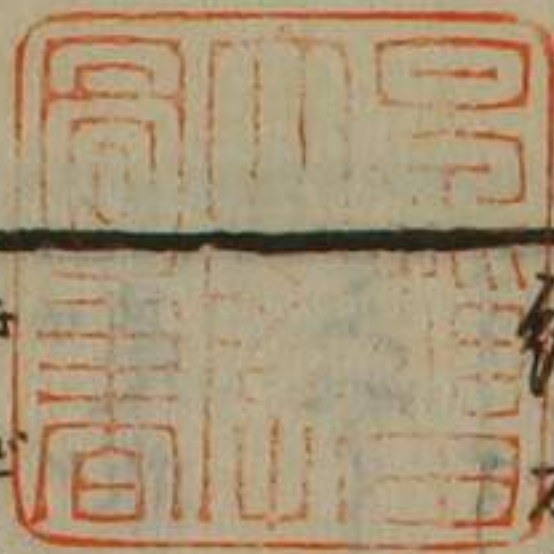


繪本豊臣勲功記五編卷之五

江戸 櫻澤堂山 編輯

先秀諫若燒惠林寺蒙贖属秀右出軍

善怒衰樂の費まるところ氣色に青赤白黒あり是人情の志くし
むらりといひども又私の而為ふして大丈事の事ふ河くば孝貞忠信
を守り胸ハ私善をまらり喜をん私怒をりつ怒くま衰樂も又茲
と妻子等の為心を動くを事ふれを真の英雄と謂つる也。我程
小右大臣信長公天下過中平法して外門小怖るる事なれば事端月
より費動まらる哉爾の果の盡きて殺氣轉論まらるのなり。若小致
入道法性院の尊敬せらるる也。甲府惠林寺といふ精舎あり。はふ松を
宗之今の府中 快門和尙 面世世變の如做ふして の位藏なりしが一山不入の大伽
の法西に在り 大通智務國師と評せらる



豊臣五編卷之五

蘭に於て遠道場小入居るものへ禽獸魚鼈ふつるを殺せしむる
 禁戒むこれに於て甲州の諸藩人遠寺中より執事と最
 く命を和尙小帰遇して急灘に船を得たるを味し解在しとの頭
 きたれ信長大小怒らせし捕ら出と命せしむる一瑞寺中にも
 命を乞ふて微容し衆門の色に河津宿ありと道言ま右府中より
 怒らせし探出して因捕らんと津田九郎次園小十郎候に命せし
 れ惠林寺へ送りしこれ隈く捜求むるも既先達て落共けしは彼小
 一個も捕得ば衆僧候までも怖懼して金山門の樓小溜む奉行候
 是非なく走返して右府小新と松一々ふと然らば寺院衆徒共は焼拂
 ぶべしと河津揮ある候惟任光秀進出形ハ物罷り候命せしむる惠
 林精舎へ送りし達聞たるとは伽蘭にして殊に大通智勝國師ハ蘇

中許販の聖人なる哉や今寡人を殺せしむること其の罪なきは
 ことども原末出家の者とすん若恨を赦ふはありぬき若無りて赦ふ
 出家の道ハ武門の仁義を違ふ同ト万重衆僧が預ひしはせ寡人の
 死を恩免あり返放命せしむる衆人君の仁義を伴ふ悉く徳化
 以歸せむ其暴じら政道めらるる河津に哀るる料理しと怨を食むま
 多めらん新小領する國郡ハ責を重ふ一野を獲ふ庶民を掩育し玉
 はんバ下より英生む一解と河賢慮ありまりやと自己が河に埋め
 せしむるも若とも懐らば傍若無人の神なりければ右府勃然とて嗔らせ玉
 ひ一言ごもよ邪正を正して河小相遠なきなり武右の政事と謂つて
 彼惠林寺の僧徒衆予が命令を憚畏まば言流し絶せし滅許法をか
 里一瑞令を出れば其意を達せしむるやむづ疾焼拂いと敷圍ふは光



豊臣巴五編卷之三



豊臣巴五編卷之三

秀推て御盡理ふはへとも。僧院へたまれ佛圖を焼る人ことを無道不似
 たり。先年比敵を焼せしれも。庶人の誹謗少なり。方僅東林寺を
 燒くこと。民の心を傷を失ふるべし。四海を治らざる。放逸を道の所奉
 止。只願御神慮す。まじげと。御小厭す。凍めたり。系未懸慮の若大臣
 多し。そのかふ小願せしむ。おのき光秀。予所行を放逸無道と。那洞を
 信長は是天下を私を。悪人なりと。理ぬるりの魚口謗言。体むるは臣の通
 と。つごも。汝は若臣の禮儀を。知るべ。顔色を犯して。禪ふとも。又未は若の
 非を。挙げ。六患。臣禮を教ゆるの。金言。然る。比敵の。燒毀。か。昔の。事。ま
 と。授出。一。誣。侍。ま。る。こと。を。諸。懐。か。れ。おの。き。案。て。漂。ふ。附。朝。倉。に。仕。て。用
 ひ。く。ま。む。予。に。奉。候。を。獲。て。一。六。患。情。を。そ。て。次。身。に。提。擧。し。も。會。法
 長の恩恵る。びや。然る。我。おの。き。が。武功。も。慢。し。勅。を。予。意。に。背。記。

予を放逸無道なりと。諸將群衆の席をも晒らば。主を恥し。若臣風
 頭。又。理。非。を。説。く。こと。を。禮。最。も。甚。く。羽。柴。流。川。條。々。若。臣。の。勅。切。莫。大
 り。と。つごも。憐。せ。む。弱。ら。ば。若。命。を。守。り。終。骨。伴。身。護。り。汝。を。榮。候
 小。較。ふ。其。功。つ。つ。ま。り。大。なる。おの。き。を。つ。つ。此。武。勇。小。憐。し。主。を。悔。し。人
 非。人。と。を。知。る。情。言。過。言。お。も。を。情。や。も。う。た。じ。や。と。憤。怒。小。堪。む。遊
 覧。り。て。光。秀。が。身。控。握。む。と。その。ま。を。卷。を。固。め。頂。の。色。紙。は。け。け。お。こ
 と。つ。つ。や。の。それ。遊。起。よ。と。近。士。に。命。じ。洞。廳。の。う。ち。を。逐。出。さ。む。在。合
 せ。る。諸。士。達。も。嚴。威。小。恐。ま。く。何。代。後。世。日。向。守。り。自。君。か。が。も。法
 以。過。た。る。お。擲。せ。し。れ。諸。將。の。眼。前。面。目。を。失。ひ。慙。念。骨。髓。小。徹。し。れ
 ば。喜。怒。骨。忽。地。大。小。勅。之。額。の。汗。の。煙。の。如。く。牙。を。嚙。り。て。逐。出。し。る。が
 洞。廳。小。勅。し。細。川。若。君。光。秀。が。体。を。視。て。志。を。く。對。愈。さ。し。ら。る。が。

信長憤火
を焼く
甲府惠林
寺燬
滅せむ

豊臣記 五 綱 卷 之 五



豊臣記 五 綱 卷 之 五

光秀方右の意若もなぐ酒を拭て退さる。信長公ハ在り余命じ弟地
 比恵林寺を焼掃さむ。彼寺の衆徒ハ悉く山門の上ふまらる。由
 門下ハ柴を積累。八方より火をゆるる。怒煙天よ霞ひ。顔四面ハ
 燃掃りて。東西の毒毒も視分び。泣叫ぶ。その所々之。悲哀いふ。より
 かろしが。漸く煙火の積まる。山門上の疎漢を視ま。衆僧の
 身焼焼。燭さく。中ハ罵之。未ハ赤之。年少き僧兒童。燭ハ燭。燭ハ燭。大
 氣ハ若く。之。飛揚。掃。狂ハ叫び。焼失。それ。か。か。快川和
 尚ハ法衣を著。数珠を握り。結伽。政府して。遷化ありしが。煙中ハ是。此。光
 を放ちて。國師の姿。活る。像。不思。識。ふ。ま。ま。考。り。し。と。無。人。奇。矣
 の。お。ま。ひ。を。か。り。り。惜。む。を。了。活。る。大。轉。舎。焼。亡。して。元。僧。こ。ろ。く
 燭。死。た。れ。バ。信。長。こ。ろ。ふ。怒。を。結。め。猶。も。武。田。の。殘。黨。を。誣。出。さ。ん。と

宥。數。あり。小。山。田。丸。之。界。長。坂。長。用。を。殺。し。て。傍。領。を。欺。き。死。に。道
 ま。さ。る。軍。を。ま。か。こ。ろ。く。信。長。せ。し。む。中。小。統。と。小。山。田。丸。を。誘。取。信。長
 ハ織田家小將り。導。掃。り。て。傍。領。を。伐。せ。功。あ。ま。り。も。自。小。害。み。と。野。城
 なら。バ。刑。せ。ら。る。く。お。が。た。れ。し。か。美。田。父。子。これ。を。伐。人。と。乞。る。由。急。信。長
 が。事。ハ。昌。孝。に。任。せ。し。む。乃。て。信。長。四。月。朔。日。甲。州。の。地。を。所。費。馬。あ。つ。て
 東。海。道。を。遊。兵。あり。同。月。廿。日。を。り。て。比。叻。安。去。に。帰。城。る。備。亦。羽。柴
 秀。吉。ハ。合。戦。の。時。節。當。來。せ。し。む。片。時。も。子。く。中。國。小。下。ら。を。と。む。府
 比。叻。を。乞。ま。り。せ。同。月。廿。日。安。去。城。ら。を。棄。て。日。路。あり。て。姫。路。に。歸。城
 一。也。他。小。軍。馬。を。悉。檢。して。由。國。出。馬。を。論。出。之。備。撰。但。因。の。諸。軍
 勢。純。集。る。が。基。中。ハ。も。浮。田。丸。より。ハ。軍。代。り。て。浮。田。七。兵。衛。家。三。万
 餘。兵。も。純。加。え。り。惣。勢。約。合。八。万。餘。兵。天。正。十。年。四。月。朔。日。後。羽。根



第一回 五郎右衛門

妙國寺の好模倣
 安土の城中
 柵裁らんに
 追て要怪を
 現す



第二回 五郎右衛門

七

る。法華經千部を讀誦せしむ。不思議の功徳力にて、黄
 帝の杖を以て、忽ち其地を編み置けり。其の如く蘇生し、
 其の位階の
 軟わゆるる。行禱に集ひ、法師達中七菩薩で法力の莫大なる
 哉。稱讃し、其の場の津いづも更なり。又畿内中國東海中も、法華
 の功徳廣大なり。枯木の蘇生し、たる。と流流日新ふるなり。なる。
 安土の城中にも、聆えたる。右府あきき怪しむ。其のい。流る蘇生は、
 る。あつて、吾庭前へ移載て、敷す。とあがり、せられ。猶子も、
 七、彼妙國寺へ遣され。蘇生を、をせし。なる。位階を、
 之。志を、御免解せし。たれども、更に許容す。ま、人技を、
 て、彼樹を、穿し。遂に安土の城中へ、搬せ。なる。是、非を、
 も、信長公、蘇生を、の、庭の、中へ、栽せ。なる。諸將を、
 集めて、酒宴

一、法も、愉快氣に、御免あり。或、將を、
 終日、興ふ。入、を、わ。御、補天、を、
 怪し、や、其、衣、處、の、面、上、に、
 妙國寺へ、歸せ。と、呼、せ。る。ふ。是、
 方、信長も、
 せ、小、庵、從、候。紙、燭、を、
 里、荒、免、の、
 此、ら、ち、
 不、
 を、士、
 地、
 豊臣記五續卷之五

申れ天狗も右大臣の位に昇り天下の武将も我に敵對物のやと
 うある處なきやうに變化を經懸さん。藤田龍成も藤田の下の正侍ら
 んとていふも。更に一步も進められ。呼ばれぬやと眼を睜き法ていふ人
 こゝろを。磐石の礎を掘ぐが如く。折柄さんとかいふは腕痿きて自ら
 ちろね。是非も法に逃れぬ元右左衛門尉も懐たりしがみよと申す處
 と冷空。了海の信長怖氣ども。御意地例ならざりけむ。いひあつる由
 ぞと穢せられらふ。いひさぬも。陸陽師を召せられ。占考あつて
 是れと徳信院法衣。言柄とされ。御門番へ所問あるふ。是れと一々藤
 鉄の宗。快脚場へ帰るを。御事なり。御一と折つるふ。いひさぬ易か
 れ危樹なり。今ハ妙國寺へ返さる。藤鉄を護送せられて法編意地
 張る大乃信長は事なり。透帳ふおがされ果て。いひあつる人と。藤田院會

申さるひたり。然れども妙國寺ハ藤鉄の不思議度又つる。と近國に流
 布する由。平日も我宗を。教を。御揚。他宗と。法の中。に。絶。情
 了。獨。立。衆。多。中。に。藤。鉄。の。不。思。議。を。入。り。り。も。今。ハ。ま。ま。と。池。宗。法
 侍。り。情。義。を。人。の。あ。と。も。多。と。な。茲。に。安。土。の。高。丈。も。法。信。傳。内。と。い。ふ
 ものあり。法信傳もいひさる。かど。日。蓮。信。者。の。あり。ら。ふ。貞。妻。和。尚。と。い。ふ
 碩。德。安。土。淨。嚴。院。へ。情。結。して。四。十。八。夜。か。の。あ。ひ。と。淨。土。の。法。法。の。い
 たる。法。信。傳。の。法。信。傳。内。六。七。人。の。同。士。成。率。い。貞。安。を。抗。人。と。淨。嚴
 院。へ。來。り。ら。ふ。貞。安。も。法。信。傳。内。と。い。ふ。腹。せ。ら。る。と。都。て。い。つ。て。取。り。め。ら
 是。藤。新。を。い。つ。も。是。歸。り。意。切。り。ら。ふ。系。統。頂。妙。寺。の。學。僧。普。傳。房
 が。許。す。ゆ。に。貞。安。が。事。を。名。禪。ふ。普。傳。大。小。傳。り。然。ハ。宗。輪。か。と。い。ふ。と。十。六
 本。寺。へ。預。ひ。出。世。流。安。土。へ。祈。願。す。と。い。は。小。塚。て。寺。社。有。り。普。傳。九。石。門



東照宮の御祭



安土浄嚴院小
おいて浄土宗
日蓮宗各
その宗儀を
論ず

東照宮の御祭

所前一言状なり。されば速に河幹宿あり。浄土宗安和尚にも命懸る
 是。安土の城下浄嚴院におく。浄土宗日蓮宗の法輪小を及る。各其
 座を東西小殺け。信長公の正廳におく。判者聽命もそれく座に
 着然る。小宗論の流儀を小籠えなれば。日蓮浄土の信者ハ勿論。諸宗の
 通儀も亦て。安土浄嚴院に走集る。宗論の同義長とて。然る。日蓮宗
 の學法達。おのが義量のため。右導法然の儀とて執る。美倫く
 雜同とて。いづも。安土浄土の智者なれば。声小懸して。言被せり。然し
 て。貞安法華藥王品の文句を引いて。若女人ありて。是經典を聞説の如く
 修行せむ。とて。安樂世界の阿彌陀佛とて。住處小住して。蓮花中宝座
 の上に坐して。何ぞ念佛之間と。佛境とるや。いふ。いと。同鞠ら。日蓮
 宗。安土浄土。信長公の正廳におく。判者聽命もそれく座に
 着然る。小宗論の流儀を小籠えなれば。日蓮浄土の信者ハ勿論。諸宗の
 通儀も亦て。安土浄嚴院に走集る。宗論の同義長とて。然る。日蓮宗
 の學法達。おのが義量のため。右導法然の儀とて執る。美倫く
 雜同とて。いづも。安土浄土の智者なれば。声小懸して。言被せり。然し
 て。貞安法華藥王品の文句を引いて。若女人ありて。是經典を聞説の如く
 修行せむ。とて。安樂世界の阿彌陀佛とて。住處小住して。蓮花中宝座
 の上に坐して。何ぞ念佛之間と。佛境とるや。いふ。いと。同鞠ら。日蓮

前を高く揚て。宗論下。駁徹けたり。日蓮宗閉口せり。かゝる。傍後。小分
 明なり。貞安功骨とて。持する。團扇を揚り。判者奉行。一同に。浄土
 宗の傍より。と。呼ぶ。けり。けり。小を。諸宗の。道法。を。奉て。貞安の。持徹。を。小
 を。獲。廻。ぬ。もの。こそ。な。り。や。り。ま。り。信長。日蓮。宗。城。傍。く。お。り。小
 折。な。れ。ば。岩。重。小。分。め。中。け。れ。る。

加藤冠城軍田代意城馬録刑世沙

翼ある物ハ。た。小。長。生。に。轉。ある。物。ハ。法。を。怖。是。に。後。に。豊。公。ハ。翼。緒
 雨。が。り。持。つ。か。如。し。若。く。小。羽。菜。花。前。中。秀。右。衛。門。中。の。國。鉄。原。山。に。信
 陣。せ。り。か。ま。づ。軍。首。に。冠。の。旗。を。改。稱。さ。ん。と。し。开。も。汝。城。ハ。林。之。守。右。衛。門。教。定
 秀。越。左。衛。門。兼。松。田。九。郎。左。衛。門。保。貞。今。川。源。九。郎。時。國。意。信。國。石。秀。後。免
 その。勢。約。合。八。百。餘。人。凍。然。と。て。對。凝。守。さ。る。小。隊。て。秀。右。衛。門。將。を。擇。む。を

の初め申すに如く、加藤虎之助清正は一千餘人の兵士をあつて冠山に向ふ。是
 の時、先意に本村又新井上、大九郎、加藤清正、飯田直之、清康、藤本義
 忠、石井左衛門、赤坂源五郎、城をつくり、太鼓を鳴して、攻め寄せし。
 城は林三帯、大島、兵士に指揮して、矢銃を箱へ。大木大石を掘り、城
 門を、侍着中と、息をも次せ、防戦を、進ま、矢石を、美ともせ、橋は
 突立、飯を傾け、軍糧を、改着る、軍の猛勢、大を、と、薪を、焼か、如
 く、それ、水をも、火も、清く、如く、清正防戦の、不作を、収く、是一、建
 以、改が、と、勢を、二隊、分列せ、を、攻め、と、指揮し、も、松本七郎
 吉房、つ、て、宵門、向ふ、たり、清正、不、冠の、城中、城、高、燃、城、の、
 を、下、と、噪、動、と、清正、大、胸、こ、を、虎、之、助、緒、勢、に、懸、く、指揮、し、て、
 城門、を、攻、登、る、胸、小、城門、を、破、く、と、用、を、獲、取、は、一、個、の、長、者、走、出、し、

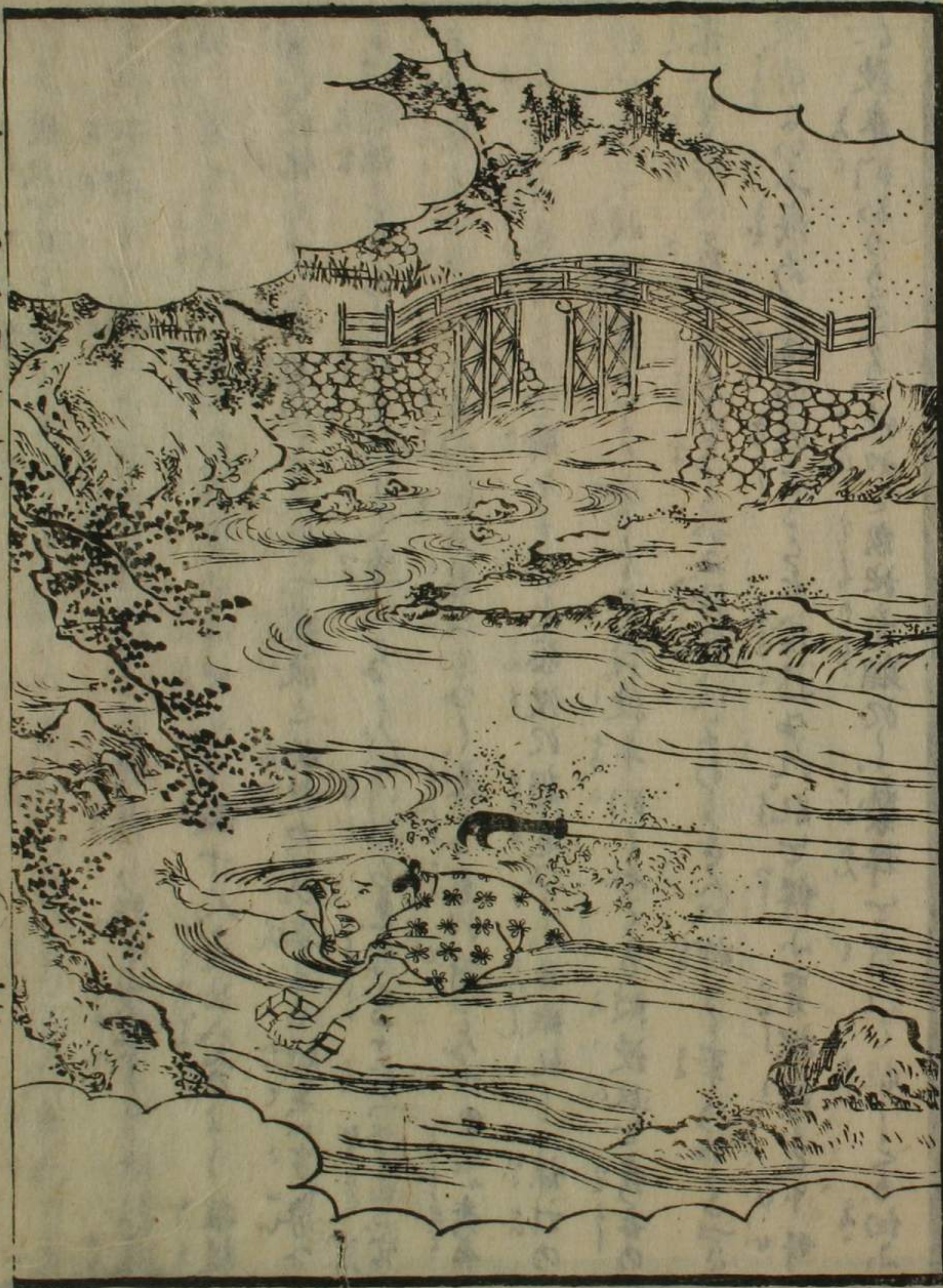
獲、取、亦、虎、之、助、を、脱、て、大地、に、降、俯、す、是、を、着、より、城、兵、輩、や、せ、れ、叛、賊、を、誘、
 團、右、衛、門、許、す、と、もの、と、進、来、る、清、正、の、先、陣、石、井、兵、右、衛、門、柴、田、降、参、の、
 者、を、も、を、快、助、け、と、呼、ぶ、る、や、と、軍、の、兵、士、十、六、百、餘、一、吐、小、敵、を、獲、
 ち、統、小、隊、ら、ふ、と、清、正、を、逃、く、も、彼、團、右、衛、門、は、索、を、縛、後、陣、に、送、り、
 且、亦、大、將、虎、之、助、清、正、に、懸、く、指揮、し、て、進、ま、る、を、城、方、の、將、士、を、我、
 方、系、松、田、九、郎、左、衛、門、投、立、す、と、強、塞、が、る、清、正、は、是、故、者、と、も、風、小、崎、
 の、猛、虎、の、像、く、正、文字、に、馳、着、て、冠、の、城、に、一、隻、騎、加、藤、虎、之、助、清、正、の、
 これ、は、跟、從、と、呼、ぶ、れ、は、は、是、に、お、く、れ、を、亦、一、騎、甲、賀、備、御、列、義、林、十、郎、
 次、二、番、騎、と、大、呼、び、進、む、を、方、ら、ふ、と、亦、一、騎、松、本、七、郎、右、衛、門、か、自、内、
 以、お、い、く、は、本、四、郎、兵、衛、三、隻、騎、と、所、呼、し、て、馳、投、る、清、正、我、方、系、巨、
 録、の、誠、を、正、當、小、隊、に、進、ま、の、大、將、こ、ご、ん、か、れ、と、擲、て、鬼、を、虎、之、助、十、文、

字の陰謀密一。月前以因りて左京に戦を興ふ。級奉と擧起ら
まき。自由の神。戦を抛棄。太刀のちまき。後時め加者。陰の鉞
を斬らんと。膝首あさり。我着現。遠方の名。不遠。怪力。奇湖。逆にか
か。び。右刀。拵。強。されるより。下へ。擧。轉。を。する。彼。處。に。亦。亦。立。大。九。吊
横。突。して。も。城。門。希。少。く。松。田。九。吊。左。馬。つ。り。斬。て。蒐。里。教。令。あ。り。ぬ。子
井。上。が。死。する。と。令。討。つ。子。水。間。の。方。へ。逃。出。を。強。願。ふ。亦。亦。我。を
更。が。適。し。い。せ。と。之。寒。り。陰。突。出。され。希。後。小。失。速。一。流。流。し。多。を
雙。方。繰。こ。ぎ。希。突。後。斬。ふ。蓋。の。深。門。以。つ。あ。く。首。を。段。々。と。備。亦。松。系。七
希。右。馬。つ。り。有。路。の。羊。腸。淫。より。竊。攻。ふ。せ。ぬ。極。け。る。今。門。源。九。吊。時。國。より
也。希。速。と。若。我。し。る。を。本。村。又。希。横。陰。入。り。逆。に。時。國。を。敵。捕。り。これ
らの。猛。威。小。城。兵。輩。方。僅。八。愜。と。と。打。連。て。降。参。を。乞。ふ。れ。ども。遠。城。攻。の

秀吉が四國九州の極涯まで。軍威を示し。合戦の多。臺にせんと。擧起
る。仰。伏。集。散。揮。ひ。ひ。く。食。悉。く。飲。み。遠。ま。大。將。林。教。室。も。進。兵。の。城
に。先。備。し。大。勢。の。中。に。城。中。に。本。丸。過。す。の。燒。夫。々。れ。愜。と。あ
と。間。に。より。身。を。幸。ふ。と。遁。出。を。松。の。城。に。改。走。し。たり。これ。より。て
冠。の。城。惣。地。落。さ。り。と。是。に。馳。率。を。命。じて。出。火。を。鎮。ま。せ。花。系。守。の
使者。を。も。り。と。希。城。の。伺。を。注。伸。せ。秀。吉。聆。く。大。に。悅。む。一。恩。賞。を。れ。し
に。行。か。せ。れ。別。々。加。藤。清。正。の。感。帖。を。り。て。賞。せ。れ。たり
朝鮮。征。伐。の。來。ふ。冠。山。の。城。既。に。落。城。し。と。れ。軍。勢。より。と。統。起。即。地。に。進
む。り。て。水。陰。に。冠。山。の。城。既。に。落。城。し。と。れ。軍。勢。より。と。統。起。即。地。に。進
で。宮。地。に。入。る。意。の。城。へ。攻。蒐。る。亦。も。遠。城。の。希。は。瀨。原。三。一。河。河。り。て。後。不。意
山。崎。連。る。最。も。險。峻。なり。と。希。山。崎。より。城。を。沈。沈。と。時。門。と。希。分。明。を
の。希。款。備。此。山。より。改。り。や。ま。ら。と。山の。背。上。に。亦。扶。塞。を。擧。衣。蓋。右。清。門

耐後春忠忠を成兵二百騎あてちしむ。備又忠の継城なり。後念か
 春の城中より野兵少補七弁元信。之乃若陣に右門久和同舎有孫十弁
 久國と凝守置て。忠の城に替軍とさうめ。然して忠の大将日比右
 衛門大吏政之野山官月少補光實。そのわろ加番の門に前番金八郎
 本村辰五郎。後ふ六百有餘騎少く率城に。然る不進兵の大將。黒田
 官兵治孝。時頭。若右衛門勝心。小奈卜。あま子。随ふ歩行大將。黒木
 平大吏。盛常。なり。其勢。二子。五百餘騎。忠の城に推進。なり。前なる急流
 の河河。一孝。孝。心。魁。馬を誘投。進。け。や。つ。ひ。と。呼。う。喚。う。遊。く
 頻と推。涉。進。六。あ。ま。子。繼。く。二。千。五。百。喊。を。率。を。統。を。つ。ま。う。け。奔。と。攻
 登。る。城。も。頑。く。准。備。せ。り。ふ。炮。矢。を。惜。ま。ず。防。戦。を。さ。ま。し。ま。す。と。攻
 魁。之。の。難。卒。二。三。十。人。敵。を。殺。さ。す。と。新。と。視。る。より。黒。田。官。治。孝。力。戦。の。素

自軍の利り。奇兵をひして。改。隔。と。選。擧。吹。て。軍。勢。を。河。の。遠。方
 へ。選。返。さ。せ。諸。士。隊。集。め。く。城。攻。の。軍。議。を。あ。も。く。做。在。さ。り。然。る。不。忠。心。の
 城。將。日。比。右。衛。門。大。吏。政。之。野。山。官。月。少。補。光。實。の。次。男。なり。しが。毛利。家。に
 旗。本。日。比。將。監。へ。両。方。の。極。者。なり。に。將。監。一。子。を。代。り。つ。く。左。方。馬。つ。つ。次。男
 を。養。嗣。と。して。日。比。の。家。を。相。續。せ。せ。右。衛。門。大。吏。政。之。野。山。官。月。少。補。光。實。の
 城。將。と。して。今。更。父。子。の。つ。つ。さ。ふ。一。遭。對。面。な。さ。す。思。ひ。で。敵。も。や。城
 を。嚴。く。圍。ま。て。出入。も。容易。く。な。り。が。さ。れ。ば。い。や。と。せ。んと。沈。吟。し。つ。
 進。軍。の。陣。取。つ。大。を。威。す。ば。敵。も。あ。ら。う。火。噪。動。せ。ん。と。さ。る。胸。に。城。中。に
 も。敵。出。ん。こと。勿。論。な。さ。ば。敵。の。放。軍。必。定。なり。我。子。の。切。巻。致。さ。す。や。是
 料。理。と。ん。と。折。翰。を。書。記。意。利。た。る。健。奴。は。馬。忠。の。城。に。使。さ。す。む。然
 不。黒。田。孝。を。八。寸。刺。の。間。も。酒。断。り。情。見。を。出。し。を。さ。な。れ。ば。登。り。も。世



世沙則之
 謀計を
 忍の城へ
 通せん
 密使を
 遣はし
 橋せらる



清に其後のならち茅柘柴を取寝ぬ。城より遠き一町をり隔たりし。推多
 記五ノ積揚るる。四面の山よりみせたり。遠く東に控を立備の幕を
 張繞し。城よりわたり視ゆるやうに。左の門を彼控ふ。餘をとりく。相
 着。はるの法に降頭架。若木黒田の勇を泰野桐着浦と左と夫と人
 と。松丹引く等。莫たり。活る準備をさる。際。夜ハ焼くと。曉る。城
 よりこそ。城着て。呼候し。た。柴山。火着て射。莫く。焼盡さんと。搦。衆
 を野山宮内制し。止り。方。煙風。より吹来。色。バ。城中。大。願。白。白。心
 半。に。あ。ら。は。南。風。お。ら。る。人。其。响。焼。を。可。あ。る。人。ふ。雲。响。等。糸。と。止。り。機
 舍。の。う。羽。柴。の。陣。より。使者。来。り。て。城。門。外。ふ。呼。ぶ。り。て。吾。ハ。羽。柴。の。使
 者。に。して。平。野。控。平。長。康。を。り。自。人。の。命。を。彼。り。て。城。將。日。元。氏。が。猪
 る。品。あり。兼。受。り。と。い。ふ。候。ふ。彼。左。の。城。門。が。記。書。た。る。執。事。の。巻。書。と

別ふ。ま。う。の。流。前。の。書。帖。を。出。す。番。兵。執。て。研。習。は。も。大。將。の。前。へ。呈。け。た。れ
 ば。右。衛。門。を。吏。に。と。り。視。る。ふ。欲。將。秀。右。の。書。帖。一。通。実。父。世。沙。が。自。筆。に。て
 候。し。く。書。た。る。執。事。の。章。秀。右。が。書。を。視。と。や。ま。不。遠。遭。世。沙。左。衛。門。謀
 望。て。猪。軍。を。燒。ん。と。ま。その。罪。状。を。さ。り。け。り。陣。前。に。お。い。く。世。沙。が。族
 守。城。大。刑。に。お。ら。る。ふ。る。む。む。を。相。謀。凡。に。記。し。たり。政。之。お。か。ひ。に。驚。願
 ふ。い。の。い。せ。ん。と。猪。將。に。問。响。野。山。栗。一。つ。り。や。日。比。氏。の。心。底。さ。ら。う
 一。と。奈。場。敵。を。殺。む。方。僅。實。父。を。目。前。小。大。刑。せ。る。事。に。お。い。く。阿。音
 阿。音。音。弁。て。お。ら。る。べ。さ。う。他。の。何。も。あ。ま。官。内。小。お。い。く。八。郎。地。城。を。う。り。し
 費。世。沙。氏。を。助。け。ご。ん。べ。あ。る。ふ。の。大。刑。ハ。已。時。と。あ。る。わ。り。大。を。懸。ぬ。う。ち
 救命。せ。せ。せ。ん。各。い。う。ふ。と。謂。り。る。ふ。右。衛。門。を。吏。に。と。り。も。さ。り。り。若。右。本。村。も
 る。是。に。同。意。し。其。ハ。批。發。人。と。鏡。と。な。れ。ば。右。衛。門。を。吏。政。之。ハ。一。途。一。途。方

父の火刑を
救はんべく
日比政之却る
秀吉が
謀計は
陥る



僅燒きんとする父世沙を奪取らんとの不念されば軍の務役の料理もよ
 らん。駛車に指揮して波菜山の四面を百姓を逐散す。君も幾く
 突費せんふと城門閉を推し大刑の場を集りたる百姓を逐散れ
 ば市民のくろく遮るべき。さる類く小遊散り。城を心成意ちかろ。柱に
 捆りし度左衛門を解却せんとなしなれども。又藤もく捆若る方解なれど。
 いふまればも解とせしめん。左ふ右躊躇そのうちに日比野山嶺に
 作流るすひ。柱も共小撃況と指揮する夢のおろしを中ぬみ暗跡と
 之をく河測に整々と搦殺をを敵と共。黒田の勇士秦相若唐團
 扇の當標。六尺餘ある鉄の棍を芋穂の像くお振る。城をくく入遊
 とくふ活ておかりと馳廻る。野山宮内それとくく。大を刀振り抗て
 相若鐵棍推把整一。黒田が自内は鬼相若といふ者を報りくろく天唱

一聲。微塵にのさんと撃手お鐵棍うけ終る宮内を劈面兜と共けりち碎れ
 血濺きく頭突り。峰頂筑後石橋の勝心へ長威把と馬を徒らせ。日比野
 つる史に糊と菓る。政之も傑氣の壯士なれ。壯中へ共小鎧を合せ秘術を
 掲して我ひなれども。了得小勝きて。剽姚の彦右衛門が鋒鉄に款當するを
 懼ひくく遂に肩より背へく。棚板をく小持たれ。馬より墮と落ると
 ころを空をさく首級殿投り。また攻破をく黒田。城門をく破り。怒潮の像く
 雲を起す。像を猛威を奮ひ。遂に城門をく破り。怒潮の像く。丸入け
 城を守りたる若者木村も。丸軍中に戦死す。残る兵士六十餘人。命め
 く。逃去りゆ。一城容易落去か。ぬ。左衛門を大刑小行ひ。然して秀
 長も言状しなれ。荒茶も各々。粉骨の地を威脅かす。中にも秦野相
 若の野山をく殿控首。あう七十六。忠合戦の大地なりと。荒茶もく

も。孝高をとりて養せられたり

今片桐板倉峯行富撃鉢馬城兵降参

兵法一編の力。侯封万戸の榮。その功を成りて。冠の城。忍北城。一軍を
を強ひて。進み板倉が峯を攻んとす。京遠城の浮田家の不領ありしを。
毛利のため。に奪えし。源田の軍代七兵衛忠家。花房志摩守。是城
前守。板倉が峯の城攻を。強て。毛兼向とんと。秀吉これを見許し。
別より。相助。相副。謀計を。言合。長樫一扛を。遣與されたる。片桐は
是城領受りし。備前勢を。魁とて。其勢。子八百餘騎。板倉が峯へ
推進す。然るに。彼城の。備將。達。進兵。今や。と。待たり。六七日。の。糧。後。あ
款。推。来る。指。池。も。な。し。漸く。為。罷。天。晴。りの。に。を。を。く。勝。ゆる。人。馬。に。踏。呼
顔。城。を。案。接。より。是。城。着。る。ふ。備。前。の。魁。兵。も。中。も。板。倉。の。半。腹。を。七。推

登る。城將の領より。軍の評議なり。軍城の。後。佐の。勢。を。待。て
し。と。評。議。を。使。し。款。進。れ。ども。あ。ま。は。城。防。を。を。く。と。ま。せ。し。し。終。に。落。城。の
端。と。なり。ぬ。仍。進。兵。の。城。測。を。し。し。陣。を。據。り。諸。勢。に。和。す。し。息。を。次
せ。ま。さ。し。や。攻。ま。し。と。備。前。勢。去。年。の。恨。を。も。つ。と。人。と。と。搦。寇。る。代。片。桐。相。副
て。款。八。十。分。地。の。利。を。得。し。必。死。の。軍。城。なり。な。れ。ば。無。謀。の。合。戦。志。も。な
り。し。乃。士。を。門。の。謀。計。あり。那。般。に。如。斯。く。よ。と。呼。ぶ。さ。ら。ふ。ぞ。七。五
情。假。現。に。お。も。ろ。ろ。計。謀。と。款。説。人。と。同意。あり。備。前。中。に。款。兵。が
を。攻。進。来る。あり。んと。待。ど。も。陣。勢。を。張。たる。の。と。り。ま。く。更。ふ。登。来。し。これ。が
り。に。美。苗。ひ。を。統。ふ。た。ぬ。と。あ。疲。る。ま。ま。に。等。し。て。從。ふ。日。没。暮。し。ぬ。
然。ども。攻。進。る。氣。色。も。見。え。ぬ。城。兵。五。ふ。より。集。ひ。兵。糧。を。を。喫。し。り。
休息。せんと。お。も。ろ。ろ。城。を。う。辰。己。の。方。に。向。り。て。を。統。を。呼。び。喊。を

法より。以榮しく進来る体なり。されば城兵はさそや。後軍からと面も。場
 く。いん。城を合せ。吾を抗せ。敵を殺す。挑発する。つと。つと。も。周給に。殺され
 軍馬の。雲。駝。の。之。城。を。を。く。来。ると。も。先。え。ん。然。ど。と。く。吾。抗。の。言。を
 び。た。し。く。も。さ。も。断。ら。く。响。さ。れ。ば。咽。る。ふ。も。祈。ぶ。ら。れ。ば。心。を。焦。ち。く。欲。せ
 嘆。し。ぬ。城。兵。進。軍。の。陣。を。除。め。當。ら。る。准。備。も。な。さ。ず。駈。率。倣
 り。づ。ふ。安。途。し。て。休。ま。ん。と。を。れ。亦。つ。づ。く。ふ。や。暗。号。と。覚。り。た。大。旗。天。を
 燿。し。て。發。冲。を。す。の。率。を。と。備。態。か。し。始。に。美。ら。く。は。釋。ま。り。却
 て。も。せ。ば。期。の。如。く。に。城。兵。を。欺。釣。る。こと。二。日。三。夜。今。ハ。白。晝。趨。の。か
 せ。く。も。さ。も。如。ら。び。放。ち。菟。種。く。不。の。煙。形。火。懸。虎。の。尾。輝。を。牙。踏
 白。龍。赤。龍。子。羽。衝。つ。と。か。ま。し。る。さ。相。試。頭。を。く。蒼。天。せ。ま。し。く。二。親。分。に
 款。も。自。方。も。一。様。に。掌。拍。く。噪。響。起。疲。を。忘。れ。く。銀。嘴。々。々。夜。ふ。入。ハ。亦

前夜の如く。攻寇する体なり。なるも。城。中。今。ハ。疲。を。果。す。防。ぐ。ま。さ。わ
 れ。ども。率。ハ。お。の。を。忘。却。し。て。ま。た。る。信。不。ね。む。る。あり。其。夜。の。曉。て。城。下。を
 祝。ま。す。遠。地。那。處。に。幕。を。うち。張。す。の。軍。針。指。の。風。に。も。ま。れ。く。翻。る。胸。布
 幕。の。うち。を。祝。く。中。を。は。ま。り。に。駈。率。酒。を。飲。醉。味。て。や。あ。ま。ひ。く。小。樽。碓。碓
 を。獲。藉。く。右。敵。柳。を。枕。と。し。右。横。左。横。に。臥。在。し。り。城。中。の。兵。士。あ。ま。を
 着。く。増。く。も。奉。止。款。の。奴。者。先。設。費。く。目。に。も。の。視。せ。んと。鏡。激。く。ら。を
 野。美。少。補。思。想。を。更。然。を。更。に。思。山。の。岩。に。と。り。て。大。不。曉。之。諸。士。の。勇。快。強。に。あ。り
 あり。俺。們。今。天。の。魁。し。て。款。の。奴。者。を。追。殺。す。請。ふ。ま。し。て。本。陣。を。七。丸。入
 せ。んと。搦。り。たり。代。衣。笠。右。門。射。後。春。これ。も。思。山。の。岩。に。奉。城。く。賢。く。制。し。止。む。と
 つ。と。も。これ。を。用。ひ。以。て。元。信。成。義。三。百。餘。人。の。搦。兵。を。率。從。一。箇。風。推。開。し。て。突
 發。を。解。例。ま。し。る。進。軍。の。駛。率。們。駈。噪。々。解。散。し。たり。ま。り。に。橋。人

斤桐計略を
承て板倉が
峯の軍勢を
焼爛せむ



焚燒しつる燈火を抛着て本陣當て逃走る。斯と看するより城兵を
 撃つ。撃つと退散せし。然るも橋の鬪撃つれば抛着たりし大移りて
 中より大玉燭の一面ふたとなりたる由也。城をこれに驚かす。逃人とこれ
 ども前後も交せし。途を考ふく。喉に際ふ。忽地燈火に撃僵され。死せし
 輩數百人。屍を被ふ。其負知せし。大將元信成勇也。列天のふす捕縛
 られ。惶遽する。そのうち大勢漸く鎮する。後看る。進を一途に喫て裏り
 散りに散起つれば。鎧向ふ。城兵一個もな。作つ。願は敗走しける。元信
 成勇の今更に。後美の面前辱しけり。死地殺場を頼む。殺風願ふ事
 執る。是とも。火毒にあつて困憊する。人進兵の勢威猛烈にして遂に
 城測ま。投槍られたり。元信今更のや。とわあをひたり。馬を弄る。宵
 後の山に遊行せ。浮田名家ま。ま。一。遊苑。只一。捨。小。擲。殺。も。あ。ま。と。等。し。く

後美勢。既城門へ。投。投。く。烈。英。怒。潮。の。威。を。奮。ひ。一。二。九。仗。を。取。り。
 に。七。夜。は。後。春。三。刀。石。久。國。七。百。餘。人。を。扶。護。な。し。く。諸。の。九。へ。逃。投。け。り。
 が。今。の。生。命。危。し。ま。け。さ。ば。頻。に。降。参。成。を。せ。れ。ど。も。後。美。勢。の。去。め。り。
 年の遺恨あき。孩兒奴僕。小。幼。を。斬。盡。さ。ん。と。憤。懣。し。つ。る。を。片。桐。
 助。作。制。止。ま。し。斯。降。参。を。乞。う。へ。に。我。も。軍。慮。に。一。ふ。こ。と。城。將。二。人。
 に。切。腹。させ。士。卒。の。助。命。を。こ。う。救。う。と。さ。す。ら。れ。始。終。を。法。奴。む。か。し。
 荒。和。守。一。言。状。し。降。参。の。駛。率。七。百。餘。人。我。本。陣。へ。伴。て。見。参。る。こ。う。
 む。秀。右。降。人。小。命。と。る。や。去。め。り。浮。田。の。遺。恨。を。何。せ。ば。助。置。つ。こ。
 に。あ。ら。ね。ど。も。格。別。れ。る。こ。う。け。れ。ば。助。命。を。為。さ。贖。に。志。忍。の。城。
 冠。の。城。板。倉。が。峯。の。城外。へ。旗。を。穿。つ。と。東。罵。し。板。倉。が。峯。に。一。城。へ。
 幸。浮。田。家。に。不。領。な。れ。ば。七。を。清。忠。家。に。安。寓。せ。し。と。く。比。地。の。政。事。

おちろく令ま一希路せんろの歌城てきしやう日細ひこ此こ既すま漢まを窺のぞせり

繪本豊臣勲功記五編卷之五

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

